# The Workplace

設計：沖野充和建築設計事務所
施工：株式会社コプロス
写真：杉野圭
文：橋本純

SE構法の実例

オフィス空間全景。幅7,280mm奥行20,020mm天井高3,150mm。床と天井は木質仕上げだが、床はフリーアクセスフロアである。右手のテスクは立ったまま打合せができる形式のものを制作し入れている。

左上：オフィス空間全景。左奥にweb会議用のモニターが見える。その背後の部屋がセミナールーム。
右上：階段状になったセミナールーム。
右下：廊下を見る。左手の壁面は全面マグネット対応のホワイトボードになっている。その向かい側が個人用ロッカー。右手はwebミーティング用ブース。

# 木造大空間で先端的なワークスタイルを実践する

**木造中規模建築への進出を目指してつくられたフラッグシップモデルは、**
**自社の近未来を指し示すワークプレイスでもあった。**

山口県下関市を本拠とする株式会社コプロスの新社屋「The Workplace」が竣工した。同社専務取締役の宮崎隆司さんと、設計を担当した建築家の沖野充和さんにお話をうかがった。

## 土木から建築へ

コプロスは、1946年に共栄土建という名称で創業した土木系建設会社で、古くは関門橋の土木工事にも携わっている。1982年に宮崎さんの祖父に当たる先代社長が立坑構築工事技術として知られるケコム工法を開発、急成長を遂げ、1991年に現社名に改称した。現在も立坑工事のトップ企業である。
社員数は128名（2022年11月22日現在）、事業規模は、ケコム工法を用いた下水道工事が4割、下関市内の土木工事が4割、建築工事が1割、新規事業が1割である。売り上げを分散し、安定化を図るための一環として建築分野へ進出した。長年土木関連事業を受注してきた経験から公共工事の進め方には慣れており、その経験を生かし、学校や県営住宅など公共建築の施工を請け負ってきた。しかし公共工事の受注予測は立てにくいため、今後は民間建築工事にも進出していきたいと考え、そのフラッグシップとしてこの新オフィスの建設に踏み切った。

## 木造平屋のモデルオフィスをつくる

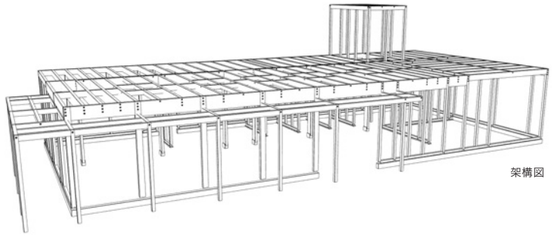
宮崎さんとSE構法の出会いは今から10年近く前になる。出身高校の同窓会で、8歳先輩の建築家、沖野さんと知り合ったことがきっかけである。沖野さんは、以前は東京で設計事務所を構えていたが、現在は下関に拠点を移し、設計の傍ら、フグ料理店やシェアオフィスを営む多様な働き方の実践者である。懇意になって自宅の設計を依頼した際にSE構法を提案され、関心は持ったが諸事情により在来工法で建てた。神奈川県で金融系コンサルに勤めていた宮崎さんは、コプロスに入社し、将来の展望を構想するに当たって、中小企業の新規事業支援を得意とするコンサルから民間建築工事への新規参入という助言を得る。だがそのためには先行他社との差別化を図らなくてはいけない。その道筋が木造中規模建築であった。そしてエヌ・シー・エヌを紹介され、改めてSE構法と接することになる。民間建築へ事業拡大するという名目で事業再構築補助金制度を活用し、社内の合意形成を得て、SE構法を用いた木造平屋大スパン架構のオフィスの実現にこぎ着けた。当初よりモデルオフィスと位置づけていたが、竣工直後から引き合いがあり、内覧に訪れた企業からは、木造でこうした空間をつくることができるとは思わなかったと驚かれた。

## 魅力的な働き場所に

敷地は、JR下関駅から北東に約10km、長府地区に位置する。南下がりの斜面地で、南側には住宅地が広がり、北側に本社屋が建つ。間口25,935mm奥行11,830mmの矩形平面で、南西側には縦繁格子を設けて外部からの視線を調整している。その格子を建物本体から1,820mm離して通り土間のような空間をつくり出し、そこにエントランスを設けかつ本社屋からのアプローチにも利用している。
オフィススペースは7,280mm×20,020mmの無柱の大空間である。天井高も3,150mmと高い。その大空間を南西側に寄せたため、耐力壁は北東側に集中することになった。そこでY2通りとY1通りに120mm×240mmの平角柱を、水平力を担う方向に配している。
このオフィスで目を引くのは、その大空間に加え、家具配置を含めた

上：南側外観。外壁はチャネルオリジナルのナチュレウォール。左側は目隠しの縦繁格子を回している。

下：南側より俯瞰する。屋上にはデッキと人工芝を敷いて社内イベントなどで活用予定。背後の建物が本社屋。

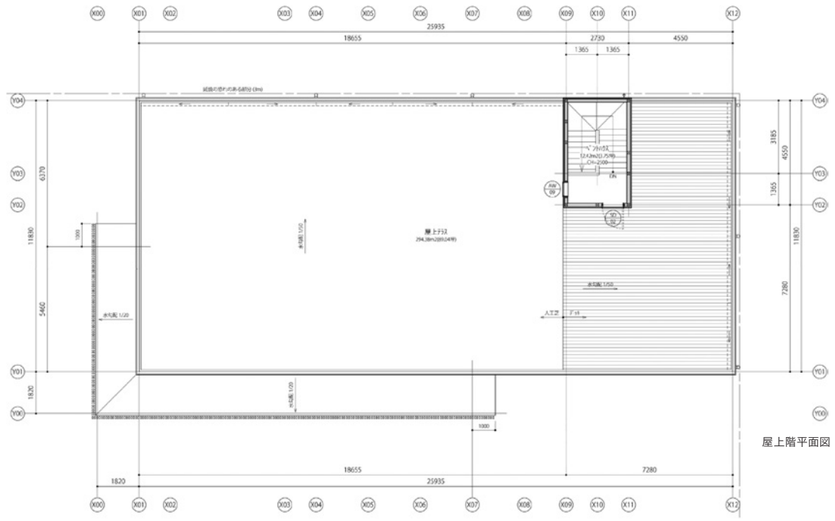


架構図

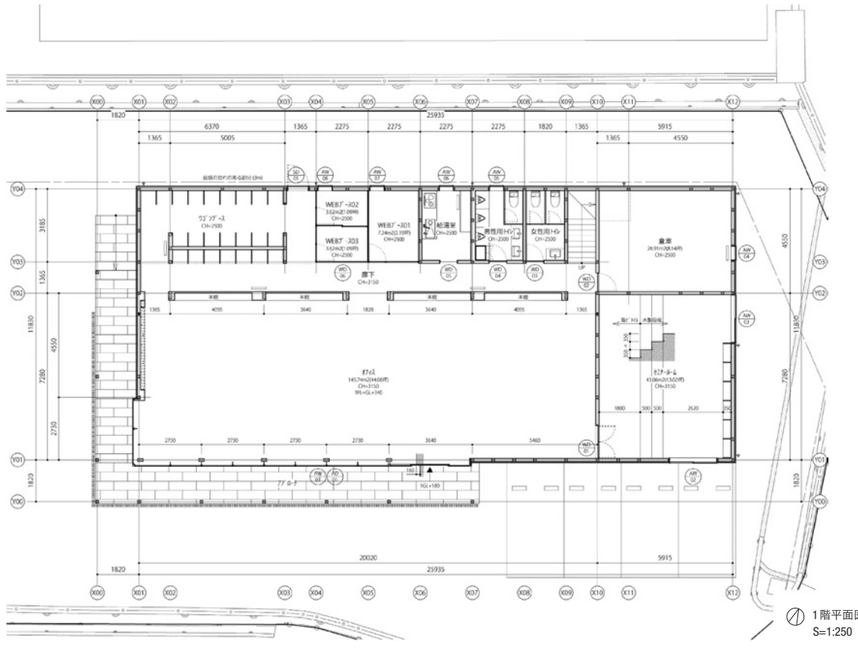
設えである。モデルオフィスという位置づけとはいえ、自社のオフィスとして機能させなくてはならない。それがきわだって今日的なワークプレイスに仕立て上げられているのだ。黄色いパーティションで仕切られた個人デスクは5席だけで、その隣にはベンチシートとカフェのテーブルのような小机と椅子を並べる。窓際には個人作業用の造付カウンターテーブルを配する。東側には、他の事業所とのオンラインミーティングを想定して大型モニターが据えられ、それに向けてくの字形のベンチを置く。そのベンチを背後側から囲むようにカウンターテーブルを配置する。その脇には立ったまま打合せをするためのデスクも用意されている。北側壁面は全面が書棚で、その裏側の廊下壁面をマグネット対応のホワイトボードとし、さらにその奥には個人用ロッカーとWEBミーティング用のブースを3つ設けている。フリーアドレスを原則とし、個人資料を机上に置きっぱなしにしてはいけない代わりに、どこででも打合せやディスカッションが行え、コミュニケーションが促進される空間に設えられている。説明会などを催すためのセミナールームも床を階段状にして、リラックスした雰囲気をつくり出している。

コプロスは建設業だが、IT系やベンチャー企業のようなオフィスの体裁を採り入れた。宮崎さんは、現場常駐が多い社員が会社に戻ってきたとき、そこでの経験を他の社員たちにも共有して欲しい、そうした環境をつくりたいと考えた。つまり個々人に内在される暗黙知を会社の共有財産としての形式知にしていきたいということである。

今はまだ働き方の変化が始まったところである。こうした変化が遅い業種と見られがちな建設業においても、10年、20年先には当たり前になっているであろうことを先取りして実現して見せたのがこのオフィス空間なのであった。



屋上階平面図



1階平面図
S=1:250

**建物名称：The Workplace**
所在地：山口県下関市長府安養寺1-15-1
主要用途：事務所
建主：株式会社コプロス

**設計・監理**
建築：沖野充和建築設計事務所
担当者名：沖野充和
構造：株式会社エヌ・シー・エヌ
設備：株式会社RISE設計室
担当者名：中田昌宏

**施工**
施工：株式会社コプロス
SE施工：株式会社コプロス
設備：大豊創建
電気：矢野電機株式会社

**敷地条件**
用途地域：第一種住居地域／
第一種中高層住居専用地域
防火指定：なし（法22条区域）
道路幅員：南側6.6m/東側4.5m
駐車台数：3台

**構造・構法**
主体構造・構法：SE構法（木造軸組構法）
基礎：べた基礎
杭：柱状改良

**規模**
階数：地上1階
軒高：4,355mm
最高高さ：6,005mm
主なスパン：7,280mm
敷地面積：952.98㎡
建築面積：348.21㎡（建蔽率：36.54%）
延床面積：319.23㎡（容積率：33.50%）
1階：306.81㎡／ PH階：12.42㎡

**工程**
設計期間：2021年4月～2022年4月
施工期間：2022年5月～2022年11月

**設備システム**

**空調**
空調方式：エアコン
熱源：電気

**衛生**
給水：公共上水道
給湯：小型電気温水器
排水：公共下水道

**電気**
受電方式：架空引き込み方式

**防災**
消火：誘導灯・非常用照明
排煙：自然排煙